

本日の資料の位置づけ

- 1 現状・課題の客観的分析・確認（前回の議論を踏まえて本日掘り下げ）
 - ・財政が厳しくなった理由（収支の不均衡，将来負担の増大）→資料 4， 5
 - ・国の義務付けのない歳出（収支の不均衡の一因）には何があるのか→資料 6
 - ・高齢者人口の増加，それを支える生産年齢人口の減少（社会福祉の増大・持続困難の一因）→資料 7
 - 2 対策の方向性（本日以降， 5 回に分けて議論）
 - ① 歳入
 - ・京都の強みを税収増につなげるまちづくり
 - ・課税自主権の更なる活用
 - ・保有資産の総点検と更なる活用 など
 - ② 歳出
 - ・国の義務付けのない歳出等の点検
（社会福祉→資料 8， 公営企業への繰出金，その他の事業）
 - ・行政の仕事のあり方の見直しと効率的な執行体制の確立
 - ・効果的な投資事業の推進と市債の償還も含んだ公費負担の軽減 など
- ※ 今後，必要となる対策の規模については， 9 月～10 月頃に提示予定

社会福祉の点検の対象と視点

1 老人福祉費の主な事業

歳出水準の他都市平均とのかい離が最も大きい老人福祉費の主な事業である、介護保険、後期高齢者医療について、本市の特徴を分析

・制度の運用は国基準どおりだが、歳出抑制に工夫の余地はないか？

2 多額の公費を投入し、利用者負担の軽減をしている事業 (国民健康保険)

3 本市独自に実施している事業

(敬老乗車証制度、学童う歯対策事業、被災者住宅再建支援事業)

上記2，3については、これまで、国，他都市，本市の外部監査等において、見直しの必要性が指摘されてきたものをピックアップ

- ・事業を持続させるための財政的な裏打ちをどう確保するか？
- ・時代の変化も踏まえ、これまでの見直しの議論は現時点でも有効か？
- ・見直しに当たって、関連施策や市民負担の状況はどうか？